

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 91 号 平成 25 年 6 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張国守平町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

整形外科外来の診療体制について

整形外科部長 花林 昭裕



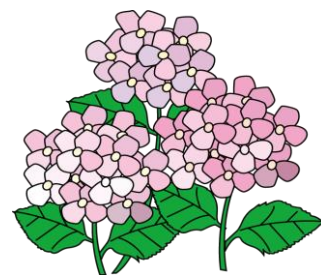
今年の春から整形外科の外来診療体制が変更となりましたのでお知らせいたします。

脊椎外科は新たに愛知医科大学病院の痛みセンターより井上真輔先生をお迎えいたしました。井上先生は日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医を取得しており数多くの手術経験を持っております。さらに、痛みセンター勤務でもあることより脊椎疾患、またはそれ以外の運動器の慢性疼痛患者に対しても積極的な保存療法も行われ、より患者のニーズにあった治療を選択することが可能です。皆様のクリニックにおいて様々な慢性疼痛でお悩みの症例がございましたら是非ご紹介ください。

毎週水曜日の愛知医科大学 臼井先生による手の外科外来、毎週金曜日の愛知医科大学 木全先生による人工膝関節外来は以前と同様に診療を行っておりますので引き続きご紹介いただければ幸いです。このほか、専門外来としては開設しておりませんが、愛知医科大学 大塚準教授による人工股関節手術も年間約 30 例ほど行っておりますので、変形性股関節症、大腿骨頭壊死症などの疾患も是非ご紹介ください。

これら専門的な疾患に関しましては緊急でない限り、専門医を直接ご使命頂き、病診連携室を通じて予約をとっていただくことにより、よりスムーズに満足していただける診療がご提供できるものと思われまます。今後とも是非ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、当院整形外科開設以来の最も積極的に取り組んでおります骨折を中心とした外傷に関しても、最新の知見と技術、インプラントを用いて治療にあたり、皆様にもご満足いただけるよう努力を続けて参ります。



整形外科外来担当表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 診	花林	花林	臼井 (手の外科)	花林	木全 (人工膝関節)
2 診	渡邊	高田	村松	井上 (脊椎)	高田
3 診	高田	松岡		松岡	

B型肝炎治療について

消化器科部長 遠藤 雅行



B型肝炎感染者は世界で約4億人存在すると推定されています。本邦におけるHBV感染率は約1%です。出産時ないし乳幼児期においてHBVに感染すると、9割以上の症例は持続感染に移行します。そのうち約9割は若年期にHBe抗原陽性からHBe抗体陽性へとセロコンバージョンを起こして非活動性キャリアとなり、病態は安定化します。しかし、残りの症例では慢性肝炎の状態が続き、肝硬変、肝細胞癌、肝不全へ進展します。成人になってからの感染では、感染後早期に免疫応答が起こり、急性肝炎後にウイルスが排除され肝炎が鎮静化するのが一般的です。しかしHBVゲノタイプAの増加により近年は成人期の感染でも慢性肝炎に移行する症例が増えてきています。

B型肝炎持続感染者に対する治療目標は、肝炎の活動性と肝線維化進展の抑制による慢性肝不全の回避、ならびに肝細胞癌発生の抑止、およびそれによる生命予後ならびにQOLの改善とすることができます。短期目標はALT値の正常化、HBe抗原の陰性化、HBV-DNAの陰性化、長期目標はHBs抗原の消失となります。

現在、HBVに対する抗ウイルス療法に使用される薬剤はペグインターフェロン(Peg-IFN)およびエンテカビルが存在します。薬剤の特性は大きく異なり、その優劣を単純に比較することはできません。Peg-IFNは24～48週の治療を行い、妊娠を希望される女性、またそのパートナーにも投与しやすい一方、HBV増殖抑制効果は弱いとされています。エンテカビルは中止後の再燃が高頻度にみられるため、原則として長期継続投与が必要ですがHBV増殖抑制効果は強く、非代償期肝硬変症例にも投与が可能です。

なお、2013年のガイドラインでは慢性肝炎に対する初回治療では、年齢、HBe抗原陽性/陰性、HBVゲノタイプにかかわらず、原則としてPeg-IFN単独治療を第一に検討するとされました。

今後も新しい治療が出てくる可能性も高く、肝炎治療は複雑化しています。当院では2名の日本肝臓学会専門医が対応いたします。肝疾患にてお困りの症例がございましたらご紹介いただけましたら幸いに存じます。